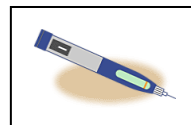


# まちのくすりやさん

第89号

今回のおはなし

「糖尿病患者3億8200万人」  
「危険ドラッグ」



## 糖尿病患者3億8200万人

糖尿病が世界で増加しています。各国の糖尿病関連団体でつくる国際糖尿病連合（IDF）によると、2013年の世界の糖尿病人口（20歳～79歳）は、3億8200万人で、1億9400万人だった2003年から倍増しています。35年には5億9200万人に達する見込みです。経済成長に伴い中国やインド、アフリカでも年々深刻化しており、欧米では糖尿病や肥満の対策として糖分を多く含んだ清涼飲料などに課税する動きも出始めています。

2013年の糖尿病による世界の死者は、510万人で、喫煙による死者約600万人に迫っていて、低所得国では資金不足で治療を受けられない患者も増えると懸念されています。

世界保健機関（WHO）は、2013年～2020年の「行動計画」で、糖尿病を含む非感染症の死者を2015年までに25%削減する目標を掲げています。国連のデシューター特別報告者（食料問題担当）は、今年5月、高カロリーで栄養バランスの悪いジャンクフードなど不健康な食品は、「**たばこより大きな健康上の脅威**」と警告し、規制を急ぐように各国に促しました。

## 日本 疑い例950万人

政府が5年ごとに実施している「国民健康・栄養調査」の2012年版によると、治療を受けている「糖尿病が強く疑われる人」は、約950万人で、1997年の調査開始以来、一貫して増加傾向にあります。

「予備軍」となる「**糖尿病の可能性を否定できない人**」を合わせた推計値は2050万人。

糖尿病は脳梗塞や心筋梗塞などの病気の原因となります。血管に直接ダメージを与え、筋肉に栄養を送る効率が悪くなり、エネルギー消費が滞るとさらに血糖値が上がるという悪循環に陥ります。専門家は、血糖値が高い人には早めに治療を開始するように呼びかけています。また、摂取カロリーの管理や毎日の運動で予防を勧めています。

糖尿病は、悪化すると腎臓や目などに重い合併症の恐れがありますが、自覚症状が乏しい2型糖尿病の人は、年に1割近くが治療を中断しているとみられることが厚生労働省研究班の調査で明らかになりました。仕事を持つ50歳未満の男性など、中断しやすい患者の特徴も明らかになりました。

糖尿病は自覚症状がないので、なぜ治療が必要かについて最初に理解する必要があります。

# 「脱法」の罠 危険ドラッグ

「危険ドラッグ」はどんなもの？

乾燥させた植物片に、合成された化学物質（薬物）の粉末や液体を混ぜたものが主力商品で、パイプなどを使って煙を吸い込みます。鼻ですったり、飲み込んだりして体内に取り込むこともあります。

「危険ドラッグ」使うとどうなるの？

アップ系（興奮系）とダウン系（鎮静系）に大きく分けられます。興奮系は、幻覚・妄ますがでたり、攻撃的な性格になったりし、覚せい剤に似ています。カチノン系と呼ばれる化学物質が代表的です。鎮静系は、意識障害が出て、大麻に似ています。合成カンナビノイド系と呼ばれる物質が多いです。

国は有害な物質を「指定薬物」に定め、それが含まれている商品が出回らないように取り締まっています。しかし、新たな化学物質を使った危険ドラッグが次々に登場。国も全体像を把握しきれておらず、取締りを難しくしています。

「危険ドラッグ」はどのくらい危険か？

病院を訪れた危険ドラッグ乱用者を厚生労働省の研究班が調べたところ、幻覚や妄想の症状が覚せい剤を上回る4割超の人に出ていました。急性中毒になると呼吸困難やけいれんを起こし死亡した例もあります。依存性が強く、なかなかやめられません。薬物が抜ける時に興奮状態になるなど、継続して治療を受けるのが難しいと言われています。



危険ドラッグは、誰も何が起こるかわからない 急性毒！！

絶対、買わない！使わない！かかわらない！！

(一社) 浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812 (月～金：10～15時)

Fax 047-355-6810

メールアドレス [toiawase@urayaku.jp](mailto:toiawase@urayaku.jp)

ホームページ <http://www.urayaku.jp/>